

# 令和 8 年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

校訓「創意 敢行」のもと、次の3点を基本目標とし、時代をたくましく生き抜く人材を育てる。

- 高い知性と創造的な能力を養う。
- 自他敬愛の精神と主体的な実践力を培う。
- 豊かな情操とたくましい心身を育てる。

## 2 学校の特徴

本校は、昭和 61 年開校、昨年創立 40 年を迎えた普通科単独校である。平成 28 年より 3 学級体制となり、現在、3 学年 9 クラス、344 名の生徒が学んでいる。ほとんどの生徒が高等教育機関への進学を目指し、昨年は 6 割以上の生徒が国公立大学合格を果たした。

県内で唯一「情報コース」を設置し、情報教育を核に ICT 機器を活用した授業を推進している。3 年次には「情報Ⅱ」が選択履修でき、高度な専門性やスキルを持つ情報系技術者や研究者を志す生徒が学んでいる。また、2 年次の学校設定科目「情報課題研究」では、自然科学分野・人文社会分野の研究を班ごとに行って課題発見能力・課題解決能力を磨き、成果発表を通して情報活用能力・発信力を養っている。令和 6 年度からは、DX ハイスクールに採択され、「情報の大門」として新たな段階に進んだ。新たに整備した先端技術を活用するとともに、大学や企業との連携と学習内容の深化を進めることで未来のデジタル社会に主体的に貢献する人材育成を目指している。

キャリア教育にも力を入れ、進路講演会、進路研修旅行、「卒業生に学ぶ」「大学生に学ぶ」「職業人に学ぶ」等の多彩なプログラムで進路意識の向上を図り、個人面談を中心としたきめ細かな進路指導を通して進路実現を支援している。

特別活動では、生徒主導による自治的・自発的な生徒会運営を目指し、生徒の主体性を生かした実践力・リーダーシップの向上を推進している。

環境教育や国際交流に重きを置き、平成 9 年から「高校生国際環境サミット」（現在の「CEI 環境国際会議」）にこれまで通算 9 回参加した。平成 25 年度・28 年度には、「北東アジア地域環境体験プログラム」に参加し、国際交流に積極的に取り組んできた。令和 2 年、CEI 環境国際会議への参加や国際環境委員会の活動の成果が認められ、「地域環境保全功労者表彰（環境大臣表彰）」を受賞している。コロナ禍でしばらく中断した国際交流は、昨年からはシンガポールでの課題研究発表の機会を通してグローバルな知の交流に踏み出した。

## 3 学校の現状と課題

現在の本校生の意識と生活の実態を見ると、優しく素直な生徒が多く、学校生活に落ち着きがある反面、将来の目標実現に向けて立ち向かっていこうとする意欲やたくましさの乏しい。「自ら高い目標を持ち、意欲的に学習し、主体的に行動できる生徒をどのように育成するか」を学校課題とし、「大門高等学校グランドデザイン」で設定した卒業までに身につけてほしい 6 つの力を、授業や学校行事、部活動などあらゆる教育活動において育てていくことを目指す。その際、DX ハイスクール継続校として整備した ICT 環境を活かし、情報を活用することで国際・地域・環境に関する教育活動を展開していく。

また、小規模校であることを強みとし、少人数ならではのきめ細かい指導を活かした大門高校独自の指導スタイルの確立を目指す。

#### 4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動  重点1① 重点1②	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高い知性と創造的な能力を養うため、自ら学ぶ意欲を喚起し、未来を切り拓く礎となる自律的な学習習慣の確立を目指す。</li> <li>○生徒の個性を伸ばし、主体的な実践力を引き出すために、互いに高め合いながら学ぶことができる学習環境を構築する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒自らが学習目標を設定し、その達成に向けて粘り強く取り組むよう、意識づけを徹底する。</li> <li>○<b>主体的な実践力の伸びを評価するため、目標達成の状況や学習の定着度等、生徒の学びの実態を多角的に把握する。</b></li> <li>○教科面談や担任面談を通じて個々の個性を伸ばさせる学習指導を行い、学習内容の確実な定着と、生涯にわたって自ら学ぶ意欲の向上へと繋げる。</li> <li>○<b>対話的で深い学びを実現するため、ICT機器を効果的に活用した、創造的な授業実践・研究の機会を継続的に設ける。</b></li> </ul>
2	学校生活  重点2① 重点2②	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活のルール(時間、貴重品の管理の仕方、挨拶、頭髪、服装等)を守り、規範意識を持って学校生活を送ることができる。(重点は登校指導)</li> <li>○自転車の交通ルールを遵守し、自転車の鍵かけを徹底して行う習慣を身につけさせる。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>学校生活のルールを守ることの大切さを折りに触れて生徒に伝える。登校指導では、全教職員で遅刻等の指導に対する共通理解を図って指導を行うとともに必要に応じて適切な個別指導を行う。また貴重品の管理について声かけを行い、管理の意識の向上を図る。</b></li> <li>○<b>自転車の鍵かけの習慣を身につけさせるために、鍵かけの点検を毎月行い、鍵かけに対する生徒の意識向上を図る。</b></li> </ul>
3	進路支援  重点3① 重点3②	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の可能性を発見し、個性や能力に応じた進路目標を設定し、実現できるように支援する。</li> <li>○進路意識の高揚を図るため、キャリア教育を推進する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年と連携を図り、あらゆる行事や活動を進路支援に位置づける。行事や活動ごとの振り返りを通して、生徒の自己理解と進路意識の向上を図る。</li> <li>○<b>学習・生活実態調査を実施し、生徒の実態を踏まえて担任や教科担当者との個人面談により、家庭での学習習慣を定着させ、目標実現のための学力をつける。</b></li> <li>○<b>進路講演会(全学年)、進路研修旅行(2年)、キャリア教育講座、高大連携事業(情報コース)等を実施し、進路意識の高揚を図り、卒業後の進路を意識した長期的な目標を設定できるようにする。</b></li> </ul>

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
4	特別活動	目標	○部活動及び地域活動や校外活動に積極的かつ主体的に参加することで社会性を身につけ、個性の伸長を図るとともに、利他の精神を育み、周囲と好ましい人間関係を構築できる態度や能力を養う。
	重点4①  重点4②	計画	○ <u>部活動を通して自己の成長が感じられるように、部活動に主体的に取り組むとともに、日々の活動の取り組み方を考え工夫し、実行できるように指導する。</u> ○ <u>生徒会・委員会・HR等での地域ボランティア活動や行政主催の研修やボランティア活動への参加を積極的に呼びかけ、1人でも多くの生徒に校外活動を体験させる。</u>
5	その他	目標	○情報教育の推進を図るとともに、情報教育のあり方について継続的に見直しと改善を図る。 ○学校のICT環境を整備し、教員のICT指導力の向上を推進する。
	重点5①  重点5②	計画	○ <u>情報課題研究（情報コース及び文系選択）の授業において、生徒が研究の方針や手法を確認する機会を増やし、研究の信頼性を高める。</u> ○ <u>「1人1台タブレット端末」を使用できる環境を整備するとともに、講習会やマニュアルなどを充実させて、ICT機器の授業での効果的な活用を促進する。</u>

## 5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度 大門高等学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	学習習慣の定着
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の多くは授業に対して誠実かつ真摯に取り組んでいる。一方で、学習の目的が「課題の提出」に終始しており、内容を深く追求する姿勢や家庭学習の習慣化には至っていない生徒も見られる。</li> <li>教員による課題設定や個別面談を通じて学習意欲の喚起を図っているものの、自律的に目標を定め、自らの意思で学びを深める「自律的な学習者」の育成が課題である。</li> <li>ICT 機器や1人1台タブレット端末の授業での効果的な活用方法を教員が相互に学び合える機運を醸成する必要がある。</li> </ul>
達成目標	① 考查実施後の反省に基づいた「学習改善策」を次の考查に向けて設定し、目標を達成できたとする生徒の割合
	② 年間2回以上、自らの授業（ICT活用場面を含む）を公開し、かつ他者の授業を参観する教員の割合
	平均70%以上
	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 考查後に振り返りを実施し、その反省と次の考查の成果との相関を分析し、多角的に生徒の変容を見とる。</li> <li>① 学習状況の振り返りを行い、学習目標の達成が難しそうなお生徒に対して、授業やHRおよび個人面談等を通してきめ細かく指導する。</li> <li>① 主体的に学習に取り組めるように教科間で課題の量や提出期限を調整する。</li> <li>② ICT機器を効果的に活用した「互見授業」を推進し、教員間の実践共有を活性化することで、対話的で深い学びを実現する創造的な授業実践を全校体制で継続できるようにする。</li> <li>② ICT教育の推進を目的とした教員対象の研修会やミニ講座を計画・実施する。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和8年度 大門高等学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	学校生活
重点課題	学校生活のルール遵守と自転車の施錠習慣の定着
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時間がギリギリの生徒が見受けられ、急いで登校する（特に自転車）ことで事故に遭う可能性が高まる恐れがある。また遅刻する生徒も散見されるため、継続した登校指導が必要である。</li> <li>昨年、越中大門駅や自宅から最寄りの駅で自転車の盗難に遭った生徒が3人いた。いずれも鍵をかけ忘れていたので、鍵かけの習慣を身に付けさせる必要がある。</li> <li>昨年度1年間に自転車に関連した接触事故が10件発生しており、安全に自転車に乗車するための意識向上を図る必要がある。</li> </ul>
達成目標	① 年間の遅刻の件数（通院の遅刻は除く）
	② 自転車の鍵かけをしている生徒の割合（毎月点検を行い、その平均の数値）
	全校で総数343件未満（生徒1人当たり1件未満）
	平均施錠率95%（毎月の点検の平均施錠率）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 遅刻しないこと（社会のルールを順守すること）は、社会人になったときには大切な要件であることを折にふれて生徒に伝えるとともに、遅刻しないためにはどのような生活を送ればいいのか考えさせる。</li> <li>① 適宜、集会等で遅刻の数の現状を伝える。</li> <li>② 昨年度、自転車の盗難（校外）が3件あり、その原因は鍵をかけていなかったことを集会等で伝える。鍵をかける習慣を身に付けるために鍵かけの点検を行い、施錠率の向上を図る。</li> <li>② 毎月1回鍵かけの点検を行う。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和8年度 大門高等学校アクションプラン — 3 —		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の確立及び実現	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年次における進路意識には個人差があり、早期から具体的な目標を持ち、進路実現に向けて準備を進める生徒もいる一方で、目標が定まらず日々の学習に対する取り組みが不十分な生徒も見られる。</li> <li>生徒の能力、適性、進路意識が多岐にわたり、進路目標実現のための情報収集や努力にも個人差がある。</li> </ul>	
達成目標	① 1・2年次 進路目標の明確化 1年次：学びたい分野を決定している生徒の割合 2年次：志望校を決定している生徒の割合 (1月に進路志望調査を実施)	② 3年次 進路志望実現達成度 国公立大学前期試験合格発表時点(3月初旬)において、志望した進路に決定した生徒の割合
	1年次 80%以上 2年次 70%以上	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講演会・進路研修旅行・キャリア教育講座、高大連携事業(情報コース)等を活用し進路意識の向上を図る。</li> <li>本校卒業生や保護者の方から直接話を聞く機会を設け、大学での学びや社会人としての生き方を実感させる。</li> <li>主体的な進路探究を図るため、教育ICTツールなどを活用し、計画的にキャリア教育を推進し、個性や能力に応じた進路目標を設定できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣と学力の状況を把握し、個人面談などを利用して学習意欲を促すとともに十分な情報と適切なアドバイスのもと進路先の入念な検討を行う。</li> <li>入試に対応した問題研究や受験指導を実施し、外部模試を活用して振り返りを促し着実に実力を向上させ進路目標の実現を図る。</li> <li>全校体制で共通理解を図りながら、受験指導を行う。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和8年度 大門高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と地域活動や校外活動の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動に加入している生徒の割合は94.8%(昨年度96.1%)であり、昨年度より加入率がやや減少したが、継続して活動している生徒は多い。</li> <li>部活動に真剣に取り組んでいる生徒は、学校生活全般においても充実した時間を送っており、また進路実現に向けてもひたむきに努力し、志望校に合格している。</li> <li>地域でのボランティア活動を計画する生徒やそれに参加する生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	① 部活動を通して自己の成長が感じられると思う生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)	② 地域活動や校外活動に参加した生徒の割合 (2学期末にアンケートを実施)
	83%以上	55%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の活性化を目指し、部長会議を開くなどリーダーの育成を図る。</li> <li>集会等で部活動に一生懸命取り組むことの大切さを説明し、日々の活動に積極的に参加するよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政主催のボランティア養成研修や富山マラソン等、他団体主催のボランティア活動に積極的に参加するよう呼びかける。</li> <li>老人ホーム「こぶし園」を訪問し、交流を深める。大門駅や通学路清掃も前年以上に参加しやすくなるよう活動内容を工夫する。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和8年度 大門高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	その他（情報教育・探究活動）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル人材としての基礎素養（情報活用能力・課題解決力）の育成</li> <li>・教職員の、ICTやAIを使って学習指導する力の向上</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI・データ活用やプログラミング等の先端的な情報教育の導入が試行段階である。</li> <li>・教職員自身のICT・AI機器の活用は進んでいるが、生徒にそれらを主体的に活用する機会を与えることには課題がある。</li> </ul>	
達成目標	① 情報課題研究の授業において、地域や社会課題解決に向けた提案を構築し、発表できる生徒の割合	② 「1人1台タブレット端末」を生徒が使用する授業を、年間で1回以上実施する教員の割合
	90%	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政・企業・大学等と連携したフィールドワークや外部発表の機会を設ける。</li> <li>・探究設計、AI・ネットワーク等の技術指導等、支援の体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向けのICT・AI実践研修を計画的に実施するとともに、実践事例を校内で共有する。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）